

指導教員名	岡田 恵実
-------	-------

活動区分	地域活性化型	連携先	企業
	イベント企画型		自治体・団
			学校(教育機関)

～ マイプロジェクトin長田(日本語カフェ) ～

活動の様子



日本語カフェで実施した交流会の様子



交流会開始前の自己紹介の様子

企画・活動概要

神戸市長田地域をフィールドとする学生のマイプロジェクトの一つとして、留学生と日本人学生が日本語で交流できる「日本語カフェ」を企画・実施した。神戸市地域協働課、ゲストハウスとまり木、日本語学校等と連携し、長田区の日本語学校に通う留学生を対象、学校外で日本語を使い、地域や人とつながる場づくりを行った。単発の交流にとどまらず、継続開催を見据え、関係者との調整や運営改善を重ねながら実施した。

経緯・背景・目的

長田区は人口減少や空室率の高さなど地域課題を抱える一方、自治体、団体、高校、ユースセンター等、多様な主体が地域協働活動を進めている地域である。そうした中で、本学学生が地域に入り、交流やつながりを生み出す活動を行うことには意義があると考えられ、昨年度も複数の取組を実施した。日本語カフェは、日本語学校に通っていた留学生自身の「学校の外で日本語を使って人と話す機会が少ない」という原体験を出発点に企画したものであり、留学生が日本語を楽しく実践的に使える場を日本語学校の多い長田地域の中につくることを目的とした。



日本語カフェ活動の終了時の集合写真

取り組む課題

長田区には5箇所の日本語学校があり、多くの留学生が学んでいる一方で、日本人と自然に交流し、日本語を実践的に使う環境は不足している。授業外での日本語活用機会の不足や、日本人との会話に対する不安、交流の場そのものの少なさが課題となっていた。そのため本活動では、留学生が安心して日本語を使える環境を地域の中に設けること、また、交流を通じて日本語を自然に使うことや異文化を理解するきっかけをつくることを課題として取り組んだ。

本学(学生)の役割

学生は、自らの問題意識をもとに企画を立ち上げ、関係団体への提案、開催に向けた調整、広報、当日の運営まで学生主体で行った。実施にあたっては、留学生が参加しやすい時間・場所の設定や、会話しやすい人数構成、テーマ設定などを工夫し、本学学生が交流支援スタッフとして参加した。特に、年齢や立場の近い学生同士が関わることで、参加者の心理的距離を縮め、安心して会話できる場づくりを担った。



4月開催の告知チラシ

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

- ・日本語カフェは、2月の初回開催(参加者1名)を踏まえ、2025年度は4回実施した。日本語学校との連携を広げながら参加者増につなげ、2回目以降は8～9名程度の留学生が参加した。
- ・各回の振り返りをもとに、学生スタッフの配置、会話テーマや文化体験の内容を工夫し、安心して参加・話せる場へと進化した。継続参加者も増え、参加者同士の関係が深まり、会話の自然さや表現の広がりも見られた。
- ・学生にとっては、他者と連携しながら企画を継続的に運営した経験となり、企画力、調整力、運営力、対話力に加え、相手に応じて場を設計し改善する総合的な実践力を養った。



クイズをしながら日本文化を学ぶ様子

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



商学部
経営学科
准教授
岡田 恵実(オカダ エミ)

<専門・担当科目等>
起業・事業承継論、中小企業論、
ビジネスプラン論、経営学入門 等

<関係者・企業等>

ゲストハウスとまり木
小笠原 舞(オガサワラ マイ)

岡田恵実ゼミナール(通称・だえみゼミ)は、起業やプロジェクトを切り口に学生ひとりひとりが自分の人生を自分でつくり、未来に向けて行動することを目指しています。自分自身の思いに基づいたマイプロジェクトや社会共創活動の実践を積極的に行っています。